命を守る最前線！

日立市南部地区の新たな防災拠点として令和２年４月に供用が開始され、今年の３月に外構などの全ての工事が終わった南部消防署。

今回は、11 月９日の「119 番の日」、11 月９日から 15 日までの「秋季全国火災予防運動期間」にあわせ、子ども通信員に任命された３人が、南部消防署を取材しました。

南部消防署建設プロジェクト

市では、津波浸水区域に立地していることや、建築から相当期間が経過し老朽化が著しいなどの課題があった「臨港消防署」、「久慈出張所」、「大沼出張所」を統合し、新たな南部地区の消防拠点として、南部消防署を建設しました。庁舎は、消防車両などの機動力を十分に発揮できるよう、主要な道路にアクセスしやすく、また、防災機能の充実も図られています。

南部消防署の特徴

南部消防署は、災害への対応として、潜水訓練プールや渡過訓練施設、室内で放水訓練が可能な消防訓練室などの設備を備えています。

消防士達は、「災害に強い安全・安心なまちづくり」という目標の実現を目指し、日々厳しい訓練に励み、市民の命を守る最前線で働いています。

日立市の消防車両

消防車両にもさまざまなものがあります。市で所有する車両の一部を紹介します。

先端屈折はしご車

高所で消火や救助活動をする車両。はしごの先端が屈折するので障害物を避けて活動できる。

救助工作車

火災や交通事故などさまざまな救助事案に対応できる車両。救助に必要な道具を数多く搭載。

水槽付き消防ポンプ自動車

火災時に水を汲み上げ消火する車両。近くに水利施設がなくても、放水することができる。

水難救助の要

県内で2か所のみ！潜水訓練プール

海や川などでの事故に備え、施設には水深3メートルの潜水訓練プールが設置されています。

訓練では、水中の様子も確認でき、水難救助技術や潜水技術向上のため、日々訓練に励んでいます。

市内唯一の水難救助隊

市内全域の水難事故を管轄する南部消防署には、市唯一の水難救助隊があり、隊員数は16人。救助艇や救命ボート、各種資機材を活用して、海や河川などで発生する水難事故に対応します。

子ども通信員も潜水訓練の装備を身に着けてみました！

潜水訓練で着けるボンベとウエイトの重量は、約25kgもあります。

県内唯一「水陸両用バギー」

水陸両用バギーは、津波や大規模風水害での冠水時の人命救助などを目的として、県内で唯一南部消防署に配置されています。

これまで、緊急消防援助隊（*）の際などに派遣されました。

＊緊急消防援助隊ってなに？

大規模災害や特殊災害が発生した場合は、被災地の消防機関では対処できないことがあります。そんなとき、被災地からの要請を受け、各都道府県の消防本部や航空隊が、応援に駆けつけます。

この応援部隊のことを、「緊急消防援助隊」と言います。

高規格救急自動車

傷病者を医療施設などに搬送するための車両。適切な処置を行い迅速・安全に搬送する。

津波・大規模風水害対策車

津波や風水害などで活動する車両。水陸両用バギーやゴムボートが積載でき、人命救助を行う。

日頃の訓練

その時、命を救うために

消防士は、要救助者を救うため、日頃からさまざまな訓練を行っています。一分一秒を争う場面を想定し、何度も何度も訓練を行います。

放水訓練・ロープ登はん訓練

南部消防署の屋上やトレーニング室では、放水訓練やロープ登はん訓練を行うことができます。

放水訓練では、火災現場での消火などを想定して本番さながらの訓練を行います。

取材の中で、防火衣を着て放水訓練を行いましたが、想像以上にホースが太くて重く、水圧がすごくて、立っている体勢を維持するので精一杯でした。

実際の火事の際に何時間もの消火活動にあたる消防隊員は、すごいです。

また、ロープ登はん訓練は、主に火災現場などで人命救助を行う際に活かすための訓練です。消防隊員は、手の力だけでいとも簡単にスルスルと登っていきます。

テレビで当たり前のように見ていた消火活動や人命救助でしたが、市民の命を守るために日頃の厳しい訓練があってできていることと実感しました。

救急訓練

ＡＥＤを活用した心肺蘇生法を体験しました。この体験では、救命処置の手順やＡＥＤの使い方、胸骨圧迫の方法などを学びました。

突然の心停止は国内で非常に多いようです。発生した場合の早期対応が救命のカギとなります。自身の大切な人の命を守るためにも講習などを受けておくことの重要性を学びました。

南部消防署には、これまでに紹介した施設のほかにも、いつでも、どんなときでも市民の安全・安心を守るため、大規模災害発生時における消防車などの燃料を備蓄する自家用給油取扱所や、停電時でも消防庁舎機能を維持するための非常用電源、井戸、災害用汚水槽など、様々な設備が整備されています。

万が一の災害の時でも、最前線で活動できる設備が整っています。

自家発電設備

自家用給油取扱所

直撃！

インタビュー

水難救助隊副隊長
金成司令補

消防士になろうと思ったきっかけは何ですか？

大学生の時にライフセービングという海水浴場などで監視する仕事をしていましたが、海の事故があった際に助からない人が出てしまいました。

それを機に、水の事故から命を救う水難救助隊になりたいと思い、消防士になりました。

消防士のやりがいは何ですか？

日々の過酷な訓練や勉強が、たとえ小さいことでも、誰かの手助けにつながったとき、やりがいを感じます。どんなことでも、困っている人がいれば手を差し伸べられる消防士になりたいと思っています。

取材を終えて　子ども通信員の感想

泉丘中学校２年生
髙松（たかまつ）　楓（かえで）さん

今回、南部消防署を取材してみて、学校でも救命講習会を受けていましたが、さらに命を救うことの重みを知ることができました。

一番印象的だったのは、潜水訓練です。潜水訓練ができる施設があるのは、県内に２か所しかないことを知り、驚きました。貴重な取材ができました。

また、取材を通して、水陸両用車や救急車に乗せていただきました。特に、水陸両用車を導入している消防署は多くないそうです。

消防署の方々は、とても優しくていねいに様々なことを教えてくださいました。私は、この取材を通して、消防署の方たちのように、困っている人にすぐ手を差し伸べられる、そんな人になりたいと思いました。

坂本中学校２年生
春日郁人（かすがいくと）さん

私は、今回の子ども通信員としての取材を通して、心に残った事がいくつかあります。

まず、南部消防署の強みでもある水難救助隊の潜水訓練です。潜水訓練はとても緊張感があり、海や川を想定した訓練を取材できて良かったです。

次に防火服です。想像よりもとても重く、暑かったです。実際に防火服を着て、消火活動を行っている消防士は、本当にすごいなと思いました。

最後に放水訓練についてです。放水時には手や足にとても負荷がかかり、ホースを放さないように耐えるのが大変でした。

私は、今回の取材を通して、消防士の方々の存在の大切さを改めて感じ、私も将来多くの人達を助けられる消防士になりたいと思いました。

久慈中学校２年生
佐々木和真（ささきかずま）さん

今回、子ども通信員として、新しくなった南部消防署を取材しました。地域を守る消防署で、日々どのようなことをしているのか、今回の取材を通して知ることができました。

私が印象に残ったものの１つ目は、潜水訓練です。訓練はプールで行っていました。実際は海や川で、助けを求めている人を捜したり、救助したりすることは本当に大変なことだろうと思いました。２つ目は、放水訓練です。実際に体験しましたが、ホースの重さと水の勢いは見た目以上で、こんなにも大変なのかと実感しました。

実際の現場で市民の命を救うという使命の下、消防士の方々が、日ごろから緊張感をもって訓練をしているということを改めて学ぶことができました。